

平成青木時報

2014年（平成26年）12月1日 第13号 発行：平成青木時報編集部 題字：三四六

青き誇りプロジェクト 上小の優良事例表彰を受賞！

平成25年度の長野県地域発元気づくり支援金の交付事業から

豊かさが実感でき、活力あふれる輝く長野県づくりを進めるため、市町村や公共的団体が住民とともに、自らの知恵と工夫により自主的・主体的に取り組む地域の元気を生み出すモデル的・発展性のある事業に対して、支援金を交付する「長野県地域発元気づくり支援金」。

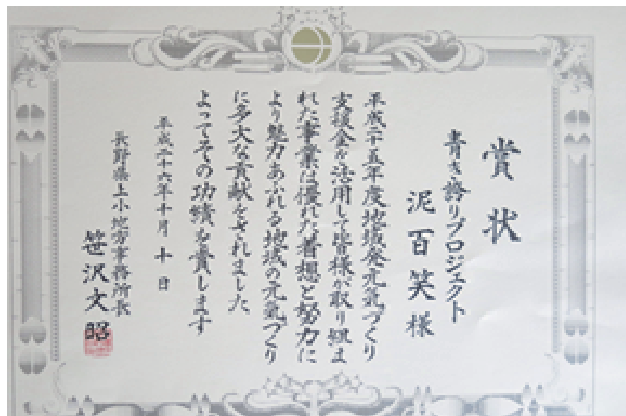
10月10日、県上小地方事務所と地域づくりネットワーク県協議会上小支部は、上田合同庁舎にて事業成果発表を開いた。昨年度の平成25年度長野県地域発元気づくり支援金の交付を受けて実施された上小管内41事業の中から、着眼点や波及効果が特に優れている優良事例に4つの事業が選定され表彰された。知事表彰は上田市のご当地ヒーローキャラクターの制作・活動の「ウェイダープロジェクト」が受賞。地方事務所長表彰は、上田市の信州国際音楽村パラの会の「バラ園づくり事業」。東御市の東御ワインクラブの「東御市産ワイン普及・振興事業」。そして青木村の泥百笑（どろひやくしやう）の平成青木時報の発刊、神楽殿サウンドフェス、青木若者会議開催の総称「青き誇りプロジェクト」が受賞した。



表彰を受ける代表



発表の様子



表彰を受けて

昨年度の私たちの活動を評価いただき、素直に嬉しく思います。ですがその分、責任も大きく感じました。そして何より、今回の受賞は、協力応援いただいた多くの皆様のおかげです。本当にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。今年度も元気づくり支援金を活用させていただきます。今後ともこの表彰に恥じぬよう、活動していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。

泥百笑一同

事業表彰の選定ポイント

情報誌「平成青木時報」の発行や文化財である神楽殿を活用したイベント、地域のことを語り合う「青木若者会議」の開催により、幅広い世代間で情報を共有することができ、地域の魅力の再発見・再認識につなげることができた。

冬の夜を照らすイルミネーション

村商工会青年部の活躍

12 月から道の駅あおきにて村商工会青年部の手により、昨年引き続き今年もイルミネーションが飾り付けられ道の駅を照らしてくれている。(右下の写真は昨年のも)

11 月に行われた産業祭でも商工会青年部は焼き鳥、おでんなどの販売やビンゴ大会を行なった。ビンゴ大会にはたくさんの子どもが参加し大変盛り上がりを見せた。

日ごろから村の産業を支え、夏祭りや花市などの行事やお祭りでも、裏方として活躍する商工会青年部。内藤青年部長によると、村内の事業主を中心に結成され現在は 15 名が所属。随時メンバーも募集しているという。今後の活躍にも注目したい。



恒例の焼き鳥の販売

←ビンゴ大会の様子



昨年のイルミネーション

地区さんぽ vol.3 入田沢区

青木村にもまだまだ知らないことがあるはず…。そこで1号ずつ12の地区を実際に行って散歩してみよう！という新コーナー。第3弾は入田沢区。

まずは、若林幹伸区長にお話をうかがった。青木区の境から青木峠まで約12キロの距離があり、標高差もおおよそ190メートルもある。洞、木立、原池、弘法の4地区による広い入田沢。現在は約200世帯が生活をしている。別荘も数件あるという。20年ほど前にできた木立団地にも多くの方が暮らし、国道沿いに会社も並んでいる。またパラグライダーパーク青木にも、体験フライトなどに多くの方が訪れているという。



田沢川

だが少子高齢化、空き家、遊休農地などの課題も多いという。またごみが捨てられる「不法投棄」も大きな問題。その対策として2体の「ゴミ無し地蔵」が置かれ、効果も大きいとのこと。そして、今号の青木時報を学ぶのコーナーでも紹介したように、以前は水害で大きな被害を受けたそうだ。

子檀嶺神社中社では毎年11月23日に、新當祭にいなめさいが行われている。これは青木区、中挾区、中村区、入田沢区の社寺係が集まり行う。神事後の直会なおらいで、とろろ麦飯を食べるのが習わし。

高くきれいな山から湧く水がとても綺麗で美味しいという話も聞いた。若い人にもっと住んでもらいたい。これから新しくトンネルと道ができれば、より便利になり多くの方が来てくれることにも期待したいとお話いただいた。

お話を聞いたあと、紅葉で色付く山々を見ながら散歩をした。深く静かな山の中、川の流れを眺めつつ気持ちよく歩けた。多くの白菜畑も見ることができた。松本・安曇野・麻績からの玄関口として、豊かな山々に抱かれた広い入田沢区。厳しい自然環境の中、古くから住んでいる方と新しく住み始めた方が協力し支えあう地域だと感じた。



青木時報を学ぶ
 昭和34年8月14号より抜粋

大きな台風の影響があったときの号外。入田沢区を中心に大きな被害に見舞われた。田沢川が氾濫し、死者行方不明者4人、重軽傷者14人、家屋の流失、全壊、半壊も多く大災害だった。青木時報はこのようにたびたび、号外を出している。今年も県内外で災害が多い1年だった。自然に囲まれた村内。今後も十分に注意しなければならない。

青木フィーリング... **管社里山ひつじ会** (北村政巳会長)

同会は当郷管社地区で、遊休農地・荒廃農地の有効活用をして周囲の環境を良くすることと、住民の親睦を深めることを目的として、2011年6月からヒツジの放牧に取り組んでいる。現在は子種^{こまゆみだけ}嶺岳登山者休憩場付近に遊休農地を整備した牧場3カ所を管理して、ヒツジ16頭を飼いでエサなどの世話^{せわ}をしている。



ヒツジ(サフォーク)の性格はおとなしく臆病だが、食欲があり雑草をよく食べるため牧場内はこれまでのように雑木が生えてくることもなく、最小限の草刈りだけで管理できているとのこと。さらに牧場周辺の農地は鹿、猪の被害も減ってきたという。年に1回「ひつじ祭り」も開催して交流の場も設けている。

人手不足など課題はあるが、環境は良くなってきている。もっと頭数を増やしヒツジの肉を使って地産地消・農業振興として、1次産業・2次産業・3次産業を足した「6次産業」に結び付けたいという

希望もあるという。定期的に刈ってもらう羊毛は、畑で作物の回りに置くとアブラムシなどへの防虫効果があり農薬の代わりとして直売所で売れたそう。

「遊休農地の荒廃化を防ぐためにヒツジの放牧は有効だと思う。他の地区でも取り組んでもらい、ヒツジの肉を村の特産にしてはどうか。そのためには、村や多くの方の協力が必要。」とお話いただいた。会員の皆さんでかわいがって世話をされていて、愛くるしい姿で見る人を癒してくれている。来年平成27年はヒツジ年。来年の主役は、今後の村の救世主になるかもしれない。(山浦)



北村正巳会長に集まってきたヒツジ

熱烈コラム



なから

季節は秋から冬へ

青木村夫神出身の上田市議会議員、林和明です。

季節は秋真っ盛り、青木村の木々も色づき紅葉が一段と映える時期になりました。それと同時に一段と寒さが増し早くも冬の香りがしてきたように思います。青木村ではそういった四季の移ろいを顕著に感じることができ故郷の素晴らしさを感じています。



現在は青木村村会議員の皆様と青木村で生産される木材の加工現場の視察を行っております。故郷の諸先輩方と肩を並べ仕事ができるのは改めてうれしく思います。

さて、先日は回り舞台での神楽殿サウンドフェスが沓掛宮淵神社にて行われました。

青木の村内外から様々な出演者が思い思いの音楽を青木村の山に響かせました。

青木村にもこんないい場所があり、たくさんの方が集まり村が熱くなった一日になったかと思います。平成青木時報メンバー一同、今後も村を盛り上げるべく活動していきます。(林和明)

共同浴場コミュニケーション

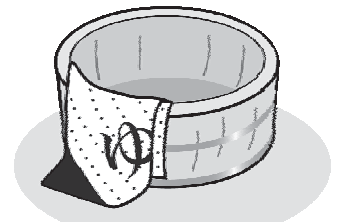
日曜日夕方に5歳の息子と3歳の娘を連れて、自宅近くの共同浴場へ行くのが日課になっている。ぬるめのお湯が子供たちも心地良いようで、とてもご機嫌だ。

自分も幼いころ、祖母に手をひかれこの浴場へ良く来ていた。改築され清潔感のある建物に変わったが、こんこんと浴槽へ流れ出るやわらかなお湯の音は、昔と変わらない。瞳を閉じれば、祖母との思い出をよみがえさせる。

幼少期この浴場で、たくさんの人と会話をした。近所のおじさんに、「騒いではいけない」「タオルを浴槽に入れてはいけない」と叱られたり。また「しっかり挨拶ができてえらいねえ」と褒められたり。

大人とのコミュニケーション方法は、この共同浴場で学んだのだと感じている。公共の場での礼儀であったり、世間話を楽しむなど、世代を超えた関わり合いである。

息子と娘もおじさんたちに話しかけてもらい、恥ずかしくも楽しそうに会話をしている。祖母の意思を継いで、この時間を大切にしたい。(山唄)



株式会社 岩下建築太郎工房

新築からリフォームまで建築工事一式お受けいたします。

青木村殿戸 582

TEL0268-75-7012 FAX0268-75-7916



編集部員の

「白黒猫」(後編)

このコーナーでは2つのキーワードを使い物語を創作しています。

今回のキーワード…かかし×おまじない

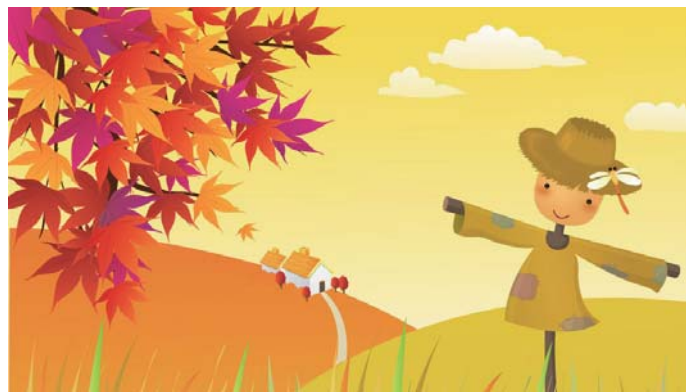
それを聞いたかかしは「君は辛くて悲しかったんだね。そして、自分を責めてしまったんだね。けど、今は涙を流してすっきりしなさい。それから一步を踏み出せばいい。」とゴマの頭をそっとなでました。ゴアはその言葉を聞いて、うわあんと大声で泣きました。するとかかしはネコに「君のキラキラ大切な人の笑顔の花を咲かす。優しくてあたたかい太陽」とおまじないを唱えると、ゴマは泣き止み笑顔に変わっていきました。

かかしは、「このおまじないは、あんずちゃんの気持ちをおまじないにしたんだ。あんずちゃんは君のこと変わり者なんて思っていなくて君のことが好きで自分のチカラで自分のことを傷つけてほしくなかった。」それを見て悲しかったんだよ。あんずちゃんは他のネコたちにも君のチカラで笑顔にしてほしかったんだよ。君のこと信じていた。輝いてほしくて。」と言うとゴマは「僕、あんずちゃんの笑顔の花を咲かせられるようにもっと自信を持つようにする。かかしさん、ありがとう。かかしさんに話を聞いてもらえてよかった。僕、頑張る。」と明るく元気に伝えると足早にどこかに行ってしまいました。かかしは「がんばれ。君なら出来る応援していつも見守っているよ。」と心の中で思いました。

ある日、ゴマはあんずちゃんに会いに行きあのおまじないを唱えながら、こう伝えました。「あんずちゃん、僕の手カラを信じていてくれてありがとう。それから、ごめんなさい。君を悲しませてしまって。けど、これからは僕の手カラでみんなも笑顔の花をさかして行くよ。」と元気に明るく言うとあんずちゃんは「いいよ。あなたはそうでなくちゃ。これからもずっと友達でいてね。」

とゴマとあんずは笑顔で握手しました。それからのゴマは、自分の力を使って他のネコ達を笑顔に変えて沢山の花を咲かせて、友達、仲間もふえました。今は仲良く楽しく暮らしています。あのかかしさんとは親友で秋風ふくころ、田んぼに遊びに行っています。かかしのとなえたおまじない「笑顔の花」は身近にどこかで風にゆれながらさいています。(終)

作者 那月



平成青木時報編集部

編集部員募集中!

このコーナーでお店の広告や、〇〇募集! などのお知らせを掲載しませんか?

- ・1 枠(5cm×09cm)…3,000 円
- ・2 枠(5cm×18cm)…5,000 円

村内に全戸配布され、公共施設や上田市にも数か所に置かれるため、宣伝効果も大きいです。詳しくは編集部までお問い合わせください。

